

論文審査の結果の要旨

報告番号	博（生）甲第264号	氏名	甲斐 結子
学位審査委員	主査 副査 副査	中村 修 吉田 謙太郎 戸田 清	
<p>甲斐結子氏は、2008年4月に本学大学院生産科学研究科博士後期課程に入学し、現在に至っている。同氏は、生産科学研究科博士後期課程に入学以降、環境科学を専攻して所定の単位を修得するとともに、食教育に関する研究に従事し、その成果を2011年12月に主論文「小中学校における教科と連携した食に関する指導のための教材開発」として完成させ、参考論文として、学位論文の印刷公表論文3編（うち審査付きの印刷公表論文1編）、印刷公表予定論文1編（審査付き論文）を付して、博士（学術）の学位の申請をした。</p> <p>長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、2011年12月21日の定例教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2012年2月15日の生産科学研究科教授会に報告した。</p> <p>本論文では、児童生徒に生活習慣病を予防する食生活管理能力を獲得させることを目的として、義務教育における生活習慣病を予防する食育の重要性の立証と、義務教育における実態調査、食育プログラムの開発、食育の実施モデルの検討をおこなった。</p> <p>まず、①教材開発のために、児童生徒の健康状態と生活習慣病の危険因子と関わりのある食行動について整理した。②児童生徒に生活習慣病を予防するための技術がどの程度身につけているのかを明らかにするため、児童生徒の生活習慣病予防に関する意識、行動の現状を調査した。その結果、生活習慣病予防に関連する食行動の実践割合や健康的な食生活を送る意識、知識を持っている者の割合は、小学生よりも中学生の方が低い傾向にあることが明らかになった。③以上を踏まえて教材開発をおこない、東京都A区の小学校20校と中学校4校で実践し、その効果を検証した。</p> <p>本研究は、食教育の分野においてもほとんど例がなく、既存の教科(家庭科・保健体育)と連携した食教育の教材として高く評価される。また同時に、児童の生活習慣病予防ひいては成人の予防という意味においても、社会的に意義ある研究である。</p> <p>以上のように本論文は、学校教育における食教育に関して多大の寄与をするものと評価できる。学位審査委員会は、食教育研究の分野において極めて有益な成果を得るとともに、児童生徒の健康教育手法の進歩発展に貢献するところが大きく、博士（学術）の学位に値するものとして合格と判定した。</p>			